

北九州市立菊陵中学校
学校だより
令和5年10月17日号
校長 上 赤 義 人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

多目的トイレについて考える

本校の大規模改修工事および夜間中学校(ひまわり中学校)の開校準備にともない、管理棟(A棟)の1階、教室棟(B棟)の1~4階に従来のトイレに加えて、多目的トイレが設置されました。

そこで、この機会に多目的トイレについて考えてみましょう。

障がい者や高齢者、小さな子ども連れ

の人などが使う、広めのトイレ。「多目的トイレ」「多機能トイレ」と呼ばれ、皆さんも学校以外にも公共施設やショッピングセンター等で目にしたことがあると思います。

多目的トイレの設置の経緯は、障がい者や高齢者が利用しやすいバリアフリーの考え方が社会に浸透していく中、2000年代には法律の施行や改正もあり、トイレでも本格的なバリアフリー化が進んできたといわれています。

車いす利用者だけでなく、乳幼児連れのためのおむつ交換ベッドや、オストメイト向けの洗浄設備など、次第にその機能が増えていきました。これによってトイレの名称も「多目的トイレ」や「多機能トイレ」と名付けられるようになったということです。

しかし今では、多機能になったがために利用者が増え、入れない人が増える要因となってきているといえます。と同時に、本来の使用目的ではない人が使用していることも少なくないようです。(障がい者用駐車スペースに当該者以外の車が止めていることも同じです。)



車いす利用の方、オストメイトの方、高齢者の方、小さな子どもがいる方、潰瘍性大腸炎などの難病の方…。同伴者がいないと入れないので、一般のトイレの広さでは難しい。病気でトイレを我慢できず、一般のトイレまで行くと間に合わない。狭いトイレだとパニックに陥ってしまう等。その中には見た目で障害と分からない人も多くいます。それぞれの事情で、多目的トイレを必要としている人がいます。まずは、私たち一人一人が少しの理解と意識を持つことが大切です。

トイレは多様な人々が暮らす社会を映す鏡だと言われたりもします。トイレについて考えることが社会をよくするきっかけになるのではないかと思います。

このことを学校の多目的トイレに当てはめてみましょう。

本校の多目的トイレは、多機能というほどではありませんが、しっかりとした個室になっています。様々な事情でみなさんが使用することには何ら問題はありません。本来の目的以外で使用することがないよう、みなさん一人一人が使用について理解と意識を持ってもらいたいです。

トイレは学校で暮らす生徒の皆さんの心を映す鏡なのですから…。

保護者・地域の方々へ

10月16日(月)の朝自習の時間に臨時の全校集会を開きました。

残念なことですが、生徒の下足にいたずらがされていました。(いたずらではすまされないことです)同様な事案が本年度複数回起きていることを踏まえて、集会を持ちました。

集会では、校長である私が「自分がされていやなことは、他人にするな」と言われるが、それはどうしてか?等について生徒自身が深く考えるよう話をしました。多くの生徒たちが真剣な顔で聞いていることに少し安堵したと同時に、私たち教員一人一人が今以上に生徒に寄り添い指導していくことの重要性を痛感しました。

生徒たちの心を育てることは、学校だけで十分だとは思いません。

是非、ご家庭や地域でも生徒たちへの声かけをお願いします。